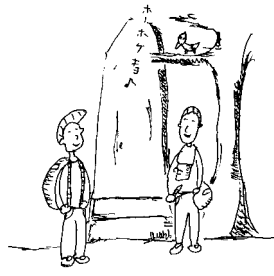


シリーズ

阿久比を歩く ⑫



桜の木に囲まれる石碑

桜の花が見ごろを迎えた。友人と花見も兼ねながら、植地区の神明社へ、石造物を求めて「ぶらり旅」に出かけた。
 神明社の森「東の裏側に立つ」端山忠左衛門氏彰徳碑を訪れる。
 小高い丘の上に立ち、ひときわ目立つ大きな石碑が「端山忠左衛門氏彰徳碑」。高さが約四メートル、幅が約一・五メートルで、とても重厚感がある。

石造物を巡る(植・大古根コース③)



―端山忠左衛門氏は、弘化二(一八四五)年、碧海郡大浜村(現在の碧南市大浜町)に生まれ、幼名は寅次郎。五歳のとき植の端山家の養子として迎えられ、二十一歳のとき「忠左衛門」を襲名。
 染色の研究や紡績会社、林業などを経営し、知多郡全域の産業や文化に貢献。明治十二(一八七九)年、初の愛知県会議員選挙で当選、その後通算三十余年余県会議員を務める。
 明治二十三(一八九〇)年、第一回衆議院選挙で当選(一期務める)。伊藤博文と親交を結び、改進黨(大隈派)と自由党(板垣派)と対抗する大成会を結成する。
 大正四(一九一五)年享年七十一歳で生涯を閉じる。
 政界や犬山城修復などの業績をたてるため石碑が建立されたようだ。明治二十四(一八九一)年濃尾大地震で「犬山城」(当時愛知県公園)が破損。多くの者は廃棄を唱えたが、端山氏の力説奮闘で城の修復が図られた。



端山忠左衛門氏彰徳碑

石碑の表面には、端山氏の功績が記され、裏面には建立に関わった人々の名前が記される。犬山藩主の末裔、成瀬家当主の名前のほか、「徳川」「中埜」など著名な苗字が連ねられ、生前の交友関係の深さをうかがい知ることができる。
 石碑近くの桜の花が満開。鎮守の森からウグイスの鳴き声をする。小さく「ホー、ホケキョ」。優しく「ホー、ホケキョ。キョキョキョキョキョキョ」。力強く「ホー、ホケキョ」。ウグイスたちの奏でる音色は心地いい。花見をしながら鳥の声を聞く。なかなか優雅だ。
 「あと、お酒があつたら最高ですよね。ぱー」といきたいですよ」と友人が言う。「もうすぐ、子どもが生まれるんだから、そんなこと言えるのも今年限りかもよ」と私が脅かす。「どうしてですか?」「宴会途中に子どものことで携帯電話が鳴り、酔いがさめることばかりだと思っよ。」「……」
 「ホー、ホケキョ」。誘惑のウグイスの鳴き声が、私たちの後ろから響いた。